

本学創立113周年式典



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼 中原 泉
編集人
発行日 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク

4000余名が参列

本学の創立113周年記念式典は、6月1日の創立記念日に東京富士見で挙行された。近藤悦子先生への名誉博士号授与式も併せて行われた。卒業50年・25年創立記念式典特別参列制度(ジュービリー5025)から多数の校友が参列した。午後からは創立記念式典祝賀会が、ホテルグランドパレスで開催された。(関連記事2・3面)

日本歯科大学創立113周年記念式典は、歴史が祝詞の中で朗々と奏上され、中原泉理事長・学長が神前に進み出て、玉串を奉奠すると参列者は二礼二拍手一礼を執り行われた。



本学卒業生や教職員による最近のトピックスを語る中原泉理事長・学長

式辞のなかで、54回卒業で本学名誉博士の村上一枝先生が、5月にテレビ東京の「世界ナゼそこ」に「日本人」に出演したと述べた。村上先生は30年間にわたりアフリカのマリ共和国でボランティア活動を行っており、本日の記念式典にも参列されていると紹介すると、式場の富士見ホールには拍手が湧き起った。

次いで近藤勝洪校友会会長が挨拶(2面)を述べ、名誉博士号授与式に移った。

本学54回卒業で矯正歯科専門医として顕著な功績をあげられている近藤悦子先生に、中原泉理事長・学長から第22号の名誉博士号が授与された。近藤先生より謝辞(2面)が述べられた。



祝詞で113年にわたる沿革を奏上

Muscle Winsの開発者

矯正歯科医 近藤悦子 先生

近藤悦子先生は、矯正歯科の分野では国際的にも著名な先生で、Muscle Winsという斬新な治療法を開発された。これは単に歯・歯列にとどまらず、舌はじめ口腔領域を含めた画期的な治療法である。著書の中に、中国語、韓国語に翻訳されている。



中原学長からベストティチャー賞を授与される井出講師(上・東京)と三瓶講師(下・新潟)



近藤先生(左)に名誉博士号が授与された

第29回 日本全身咬合学会学術大会

健康寿命の延伸と咬合

2019.11.16(土)-17(日)

日本歯科大学 新潟生命歯学部
新潟県新潟市中央区浜浦町1-8

大会長 佐藤 聡 (新潟生命歯学部歯周病学講座教授)
準備委員長 両角祐子 (新潟生命歯学部歯周病学講座准教授)
学術大会ホームページ <http://www.kokuhoken.jp/jaoh29/>

平成30年度ベストレクチャー賞

【生命歯学部】
1位 生命の科学 / 1年後期 自然科学教室講師 豊田謙介
2位 感染微生物学 / 2年後期 微生物学講座講師 田代有美子
3位 歯科薬物療法学 / 3年前期 薬理学講座助教 鳥居大祐

【新潟生命歯学部】
1位 6年授業(放射線) / 6年後期 歯科放射線学講座教授 小椋一朗
2位 6年授業(小児歯科) / 6年後期 新潟病院小児歯科講師 三瓶伸也
3位 小児歯科学 / 3年後期 小児歯科学講座准教授 田中聖至

お礼のことは、勤続30年の私どもは平成元年、1989年から本学に勤めてきた。平成の時代を考えると、驚くようなことがいろいろあった。歯科界でも阪神・淡路、中越、東日本の大震災などの災害に際して、歯科医療は災害援助にどのように対応するかが求められた。平成が始まったときには、「高齢化社会に向って活躍を讃えたい。」(日本歯科大学理事長・学長 中原 泉)

「という言葉だったが、アツと云う間に超高齢化社会ということで、歯科医療に求められることや知識も違ったものが加わった。また日常臨床では、インフォームドコンセントは、社会に対する説明責任の流れだろうが、現在では極めて当たり前の言葉になっている。」



新たな令和の時代でも変化が多々あることは想像に難くない。時代のフロントランナーとして努めるだけでなく、変えてはいけないことにも冷静に目を向けながら、なお一層努力を重ねたい。(附属病院総合診療科1 仲谷 寛)

中原泉 理事長・学長挨拶

いま、大学に求められているもの

本日、日本歯科大学創立113年を迎え、教職員、校友、そしてジュビリー5025の先生方をお迎えして、一緒に創立を祝うことは私にとり大きな喜びである。

54回卒の村上一枝先生は、5月27日、テレビ東京の「世界ナゼそこに?日本人」の番組に出演された。先生は30年間にわたり、アフリカのマリ共和国でのボランティア活動を行っている。現地の女性に裁縫を教える活動の道を立てることから始

め、現在すでにマリ共和国各地には、先生の建てた学校が20校、助産院が11軒になる。現在も内乱が続く超危険国と言われているマリの地で尽力されている。TVは村上先生に密着して1時間にわたる特集番組を組んでいた。

先生のご苦労の一端をお話しすると、マリで20回ほどマラリアに罹ったという。免疫はないのかと思つたが、マラリアにやられると1週間大変な苦しみだそう。先生は私の同級生だが、スゴイの一語に尽きる。名誉博士の村上先生が本日見えているので、ご起立ください。(拍手)、ありがとうございます。

次に先日朝7時過ぎに「日本歯科が出ていますよ」と家内から電話が入り、慌ててテレビをつけると、附属病院総合診療科の大津光寛准教授が、5月26日のNHK朝のニュース「おはよう日本」で摂食障害について分かりやすく解説していた。堂々とインタビューに答えて、頼もしいかぎりだなと思つた。

新潟の医の博物館の佐藤利英准教授は3月22日、NHK・BSプレミアム「英雄たちの選択」で、博物館内

で秀囲気たつぷりに興味深く杉田玄白について語つた。番組で放映された資料はたくさんあつたが、その中で本物は全て私の博物館の所蔵品である。

72回卒の中島信先生は、一昨日の5月30日、NHKの「ごナマオトナの遊び場」に「壮観! ロープウェイ大特集」という見出しで、20分間、生出演した。先生は2400ある鉄道をすべて踏破し、その上で160あるロープウェイを踏破したというロープウェイマニアで研究者である。マツコデラックスの番組にも出演したが、2017年に『絶景! 日本全国ロープウェイ・ゴンドラコンプリートガイド』という立派な本を出版している。

また本学名誉学長の中原泉は、日本の美術史に



神前に進み出て、玉串を奉奠する中原理事長



♪大空流るる...、参列者全員で校歌斉唱

残る洋画家として知られている。昨年中原實の作品42点を美術館に寄贈した。そうしたら小池百合子東京都知事から礼状を頂戴した。この美術館は木場の東京都現代美術館で、3年間改修工事をして、3月29日からリニューアル展が開催された。その中で中原實の作品は12点が展示され、数でも絵自体もほかの作品を圧倒していた。リニューアル展の目玉として評判になっている。6月16日まで開催されているので、絵のお好きな先生は、ご覧になっていただきたい。

次に先日朝7時過ぎに「日本歯科が出ていますよ」と家内から電話が入り、慌ててテレビをつけると、附属病院総合診療科の大津光寛准教授が、5月26日のNHK朝のニュース「おはよう日本」で摂食障害について分かりやすく解説していた。堂々とインタビューに答えて、頼もしいかぎりだなと思つた。

長い歴史の中で日本歯科大学が、どれほどの人材を送り続けてきたか、その一端を私にご紹介させていただきます。日本の歯科界では日本歯科医師会、日本歯科医師連盟、そして日本歯科医学会は母校の卒業生が占めており、他校から大変うらやましがられている。

6月からは広島県歯科医師会会長に甲野峰基先生が就任するので、全国の道府県歯科医師会会長は、東京、北海道、山形、福島、茨城、そして愛媛、広島の7人にな

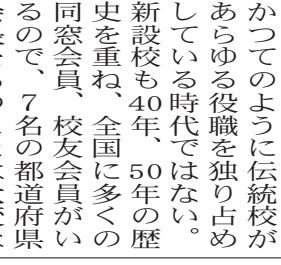
い。次に昨年2月より安倍首相が本学附属病院に通院されている。昨年の本学創立112周年の記念の日の6月1日夜、日本歯科医師会の堀憲郎会長、日本歯科医師連盟の高橋英登会長、本学から私、三代冬彦病院院長、衆議院議員の三ツ林裕巳副院長、それから口腔外科の小林隆太郎教授が公邸で夕食会に招待された。

今年になり、4月2日、新元号が発表された翌日に再度お招きをいただいた。2回目は私、中原貴副学長、三ツ林副院長

長、小林教授が参上した。私などは総理の主治医である小林教授の付き添いで行ったようなもので、総理の主目的は小林教授に謝意を表したいという招待であつたと解釈をしている。

以上6点ほどお話ししたが、この3カ月足らずの間に起こったことで、特にメディアへの露出が多かった。私も大学人には三つのシヨンが必要だと思つている。一つはミッション、使命、二つはパッション、情熱、三つはファッション。これは流行のファッションで

はなくて、話題性と解釈していただければと思つている。大学内はもちろん、卒業生の先生方が世の中にむけて、日本歯科大学をPRしてくださるということであり、大変にありがたい。



日本歯科大学校友会 会長 近藤勝洪

47都道府県で7人と、あまり多くないが、かつてのように伝統校があらゆる役職を独り占めしている時代ではない。新設校も40年、50年の歴史を重ね、全国に多くの同窓会員、校友会員がいるので、7名の都道府県会長をもつことは大変なことである。これも日本歯科大学がまさに伝統校であり、それだけの歴史があることの証しだと考えている。

今日はジュビリー5025の先生方も、会場にいらつしやっています。今回のジュビリー50は58回、25は東京・新潟83回の卒業生の方々が対象だ。本日、母校の発展した姿を目の当たりにされ、地域のみならず、幅広い方々に伝えてほしい。つい最近、校友会の先生方に、母校受験

はなくて、話題性と解釈していただければと思つている。大学内はもちろん、卒業生の先生方が世の中にむけて、日本歯科大学をPRしてくださるということであり、大変にありがたい。

私どもはこのファッションに浮かれることなく(一実は私は大変浮かれています)が、創立113年もたつているので、だいぶ疲労も来ているので、大学のポルトとナットを締め直すことが、これから心がけていかなければならない。

丸山早苗(教務部・学生部) 中原由絵(総合診療科1) 宇塚 聡(矯正歯科) 今井智明(歯科麻酔・全身管理科) 齋藤恵美子(歯科衛生士室) 下山真奈美(看護部) (新潟生命歯学部) 佐藤友則(歯科保存学1) 鈴木渚子(外科学) (新潟病院) 北澤裕美(小児歯科) 岩野貴子(歯科衛生科) 相方恭子(歯科衛生科) (附属病院)

ただ今、中原学長よりご紹介していただき感謝している。私が日本歯科大学を卒業後、矯正

母校が世界に貢献したこと 名誉博士 近藤悦子

学教室に入った時に、榎恵教授とお弟子さんの大野英先生がいらつしやっています。大野先生は、たくさんの治療方法がある中で、ライトフォース・ローフリクションという細かいワイヤーのアンカヤーの細いワイヤーのアンカヤーの細いワイヤーで治すたす医療を導入した。細かいワイヤーで治すたす医療を導入した。細かいワイヤーで治すたす医療を導入した。



近藤悦子

はなくて、話題性と解釈していただければと思つている。大学内はもちろん、卒業生の先生方が世の中にむけて、日本歯科大学をPRしてくださるということであり、大変にありがたい。

私どもはこのファッションに浮かれることなく(一実は私は大変浮かれています)が、創立113年もたつているので、だいぶ疲労も来ているので、大学のポルトとナットを締め直すことが、これから心がけていかなければならない。

丸山早苗(教務部・学生部) 中原由絵(総合診療科1) 宇塚 聡(矯正歯科) 今井智明(歯科麻酔・全身管理科) 齋藤恵美子(歯科衛生士室) 下山真奈美(看護部) (新潟生命歯学部) 佐藤友則(歯科保存学1) 鈴木渚子(外科学) (新潟病院) 北澤裕美(小児歯科) 岩野貴子(歯科衛生科) 相方恭子(歯科衛生科) (附属病院)

お弟子さんが、また素晴らしい教授たちを育み、私の本をボランティアで訳してくれた。台湾や韓国でも、英語や中国語、韓国語に訳してくれた。特に第44回卒でイリノイ大学教授の青葉恒夫先生は、世界で最高の指導者のT.M.グレイバー先生のもとで働いていた。グレイバー先生は「僕は世界のたくさんの先生と仕事をした、だけれどもT.J.Aobaは44年間、僕を一回も裏切らなかった。だから僕は日本人の君を信用するよ」と私に言ってくれました。

学長先生は私の同級生で、学生時代は一つ前の机で勉強していた。その先生が、私の治療方針と同じ、患者さんにやさしい医療、人間が幸せに暮らせる医療を、生命歯学の名のもとに教育されていることに感激している。

その結果が筋肉は呼吸の様式によってかわる。筋肉が強ければ過蓋咬合、筋肉が弱ければ舌骨位と咬合高径があがって呼吸がおきる。そこからMuscle Wingsという私の治療方法が考え出された。

これは私一人ではななく、日本歯科の偉大な先生方の恩恵のもとに育まれ開発された医療なのである。またこの医療を行うことで、リタイナーなしで長期咬合の安定が得られた。そのことが海外の先生方に認められて、私の本が中国語、英語、韓国語に翻訳され出版された。そのきっかけは、日本歯科大学の113年の歴史の中で留学生に施した寄与である。中国に行くと大教授が、「私は日歯大で勉強した」と言っ

た。これは私一人ではななく、日本歯科の偉大な先生方の恩恵のもとに育まれ開発された医療なのである。またこの医療を行うことで、リタイナーなしで長期咬合の安定が得られた。そのことが海外の先生方に認められて、私の本が中国語、英語、韓国語に翻訳され出版された。そのきっかけは、日本歯科大学の113年の歴史の中で留学生に施した寄与である。中国に行くと大教授が、「私は日歯大で勉強した」と言っ

た。これは私一人ではななく、日本歯科の偉大な先生方の恩恵のもとに育まれ開発された医療なのである。またこの医療を行うことで、リタイナーなしで長期咬合の安定が得られた。そのことが海外の先生方に認められて、私の本が中国語、英語、韓国語に翻訳され出版された。そのきっかけは、日本歯科大学の113年の歴史の中で留学生に施した寄与である。中国に行くと大教授が、「私は日歯大で勉強した」と言っ

第1号	1964年	周 汝川 (台湾)
第2号	1969年	P. R. Begg (オーストラリア)
第3号	1999年	王 大章 (中国)
第4号	2000年	R. L. Christiansen (アメリカ)
第5号	2001年	S. Chuckpaiwong (タイ)
第6号	2002年	羽塚勇司 (日本)
第7号	2003年	A. Garfunkel (イスラエル)
第8号	2004年	N. C. Gervasio (フィリピン)
第9号	2005年	周 明勇 (台湾)
第10号	2007年	W. Suchato (タイ)
第11号	同	C. Suchatlampong (タイ)
第12号	2008年	M. Von Leudinghausen (ドイツ)
第13号	2010年	D. M. Brunett (カナダ)
第14号	2012年	J. M. Powers (アメリカ)
第15号	同	R. Happonen (フィンランド)
第16号	2013年	C. Stohler (アメリカ)
第17号	2014年	村上一枝 (日本)
第18号	2015年	飯塚建行 (スイス)
第19号	2016年	周 学東 (中国)
第20号	2017年	B. Amarsaikhan (モンゴル)
第21号	2018年	G. M. Townsent (オーストラリア)
第22号	2019年	近藤悦子 (日本)

- 丸山早苗(教務部・学生部)
- 松井信子(看護科)
- ☆20年勤続表彰
- 〈学校法人〉
- 本永祐子(事務局)
- 高田清美(解剖学II)
- 横山正起(歯科補綴学I)
- 安藤文人(歯科教育支援センター)
- 丸田久美子(歯科理工学)
- 丸山早苗(教務部・学生部)
- 松井信子(看護科)
- ☆20年勤続表彰
- 〈学校法人〉
- 本永祐子(事務局)
- 高田清美(解剖学II)
- 横山正起(歯科補綴学I)
- 安藤文人(歯科教育支援センター)
- 丸田久美子(歯科理工学)
- 丸山早苗(教務部・学生部)
- 松井信子(看護科)
- ☆20年勤続表彰
- 〈学校法人〉
- 本永祐子(事務局)
- 高田清美(解剖学II)
- 横山正起(歯科補綴学I)
- 安藤文人(歯科教育支援センター)
- 丸田久美子(歯科理工学)

た。これは私一人ではななく、日本歯科の偉大な先生方の恩恵のもとに育まれ開発された医療なのである。またこの医療を行うことで、リタイナーなしで長期咬合の安定が得られた。そのことが海外の先生方に認められて、私の本が中国語、英語、韓国語に翻訳され出版された。そのきっかけは、日本歯科大学の113年の歴史の中で留学生に施した寄与である。中国に行くと大教授が、「私は日歯大で勉強した」と言っ

た。これは私一人ではななく、日本歯科の偉大な先生方の恩恵のもとに育まれ開発された医療なのである。またこの医療を行うことで、リタイナーなしで長期咬合の安定が得られた。そのことが海外の先生方に認められて、私の本が中国語、英語、韓国語に翻訳され出版された。そのきっかけは、日本歯科大学の113年の歴史の中で留学生に施した寄与である。中国に行くと大教授が、「私は日歯大で勉強した」と言っ

た。これは私一人ではななく、日本歯科の偉大な先生方の恩恵のもとに育まれ開発された医療なのである。またこの医療を行うことで、リタイナーなしで長期咬合の安定が得られた。そのことが海外の先生方に認められて、私の本が中国語、英語、韓国語に翻訳され出版された。そのきっかけは、日本歯科大学の113年の歴史の中で留学生に施した寄与である。中国に行くと大教授が、「私は日歯大で勉強した」と言っ

た。これは私一人ではななく、日本歯科の偉大な先生方の恩恵のもとに育まれ開発された医療なのである。またこの医療を行うことで、リタイナーなしで長期咬合の安定が得られた。そのことが海外の先生方に認められて、私の本が中国語、英語、韓国語に翻訳され出版された。そのきっかけは、日本歯科大学の113年の歴史の中で留学生に施した寄与である。中国に行くと大教授が、「私は日歯大で勉強した」と言っ

創立記念式典祝賀会

創立113周年記念式典祝賀会は、ホテルグランドパレスで午後1時より開催された。中原泉理事長・学長が開宴の挨拶を述べ、乾杯の発声は近藤勝洪校友会会長。本学関係者に加えて、ジュブリー5025により、卒後50年(59回卒)と卒後25年(83回卒)の校友約70名が出席した。昨年まで出席されていた校友会名誉会員で元会長の朝比奈敏行先生は昨年秋、前会長の光安一夫先生は今年春、相次いで逝去された。歓談がつづく中、藤井一維理事(新潟生命歯学部)が中締め挨拶を述べた。

創立113周年



創立113周年を迎えた喜びを語る中原理事長



住友雅人名誉教授からも一言...



乾杯の発声は近藤校友会会長



健康寿命を延ばそう！-40歳からの食育

浜浦祭公開講座「歯科から見た食生活改善」



桑の葉を使ったお茶やうどんを受けとる参加者たち



講演後も質疑応答がつづくアイヴィホール 左から司会の戸谷収二准教授(新潟病院口腔外科) 二宮准教授、中野客員教授、小松崎教授

浜浦祭公開講座は、6月9日(日)午前10時から、新潟生命歯学部アイヴィホールで開催された。今回のテーマは「歯科から見た食生活改善や食育のポイント-40歳からの食育とは!健康寿命を延ばそう!」で、「寄附講座」食育・健康科学講座に所属・併任する3人の演者の講演があり、新潟キャンパス近隣の方々をはじめ、多くの市民が聴講した。食育・健康科学講座の中野智子客員教授は「中・高齢者の食の危機」と題し、まず創立者

中原市五郎先生の『日本食養道』の一節を紹介した。現在は食や栄養に関する情報が氾濫しているが、それらを吟味することが重要であり、食品に使用する殺菌剤や防カビ剤などの化学物質の摂取量が增大していること、遺伝子組み換え食品は体内に蓄積されやすいことなど、食品の生産や流通の変化は摂取する栄養素にも影響を与え、従来の常識が通用しない時代になったと述べ、「食」に関する最新のトピックスを解説した。新潟病院総合診療科の二宮一智准教授は、「歯・口腔の健康と食育・食生活指導のポイント」と題し、現在介護予防活動が全国的に展開され、口腔機能の維持・向上も重要なポイントとなっている。低栄養の全身機能への影響は大きく、歯や口腔機能の重要性を再認識してもらう必要がある。食育は小児期における問題と思われがちだが、中・高齢期の食

育も大きな課題となつて

いると述べた。高齢になると「何でも食べられる」と感じる人が少なくなるので、食べられる機能の衰えを防ぐことが大事である。高齢者は積極的な栄養摂取を心がける。低栄養予防の力ぎはまめに食べて動くこと、健康寿命を延ばす三つの柱として、栄養・運動・社会参加が重要で、「食べることにこだわって健康長寿をめざしてほしい」と強調した。衛生学講座の小松崎明

教授は、「口腔機能向上対策 誰がやるの?自分でしょ...」と題し、摂食・嚥下機能は獲得した順番に喪失する傾向にあることを解説した。また高齢者が離乳食レストラを利用していることに衝撃を受けたと語った。個人差の大きな高齢期にこそ、人それぞれに合った口腔機能向上策を早期に示し、オーラルフレイルを予防する必要があると述べ、地域の茶の間で、本学の

学生たちと一緒に口腔機能向上対策に取り組んでいる事例を紹介した。講演終了後も聴講者から質問が相次ぎ、会場内では活発な質疑応答が行われた。アイヴィホール前の受付では、中野客員教授監修による、桑の葉を使ったお茶やうどんを配付していた。

最終講義では、①日歯大の卒業生(大)は、これは東日本大震災後、福島県からの避難者とともに、2013年6月に設立し、事業を展開している株式会社ふるさとの福島(新潟市胎内市)が生産したもので、公開講座の参加者たち

は、高齢者に必要な栄養素などの説明に聞き入っていた。

2千万円を遺贈する 本学では去る6月、三重県の高志ある方の遺言により、現金2千万円の寄贈を受けた。このご厚意に応え、遺贈されたご芳志は、本学における研究や教育のため、有効に活用させていただく。



藤井理事による中締め



ジュブリー25(83回卒)の先生方

望月助教(生命歯科学講座) 日本抗加齢医学会研究奨励賞



望月助教(左)と発生・再生医学講座の中原貴教授

生命歯科学講座の望月真衣助教は、6月にパシ

活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態をいう。死亡率の上昇や身体機能の低下が起り、何らかの病気にかかりやすくなったり、入院するなど、ストレスに弱い状態になる。風邪をこじらせ肺炎を発症したり、だるさのため転倒して、打撲や骨折する可能性がある。早く気づき対応することができれば、フレイルの状態から健康に近い状態に改善できる。 歯科理工学とともに40年 生命歯学部歯科理工学 学との絆の強さ、②P 講座の宮坂平教授の最終記念講義は、6月27 装置の作製、③DEの商 品テスト、④ISOにつ

宮坂教授(理工)最終記念講義 歯科理工学とともに40年 生命歯学部歯科理工学 学との絆の強さ、②P 講座の宮坂平教授の最終記念講義は、6月27 装置の作製、③DEの商 品テスト、④ISOにつ

文は、英国の幹細胞専門誌「Stem Cell Research & Therapy. 2018; 9(1): 5」に掲載された。 一般社団法人日本抗加齢医学会は、会員数8500名を超え、医師や歯科医師のほか、多職種メデイカルスタッフを会員とする。今回のメインテーマは「異次元のアンチエイジング-時空を超えた百寿の世界へ」で、3日間



花束を手にする宮坂教授(前列中央)と記念撮影

平成元~31年 日本歯科大学(NDU) 平成のできごと

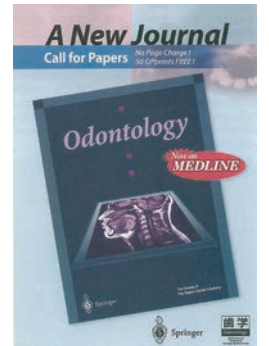
元年(1989)	6月30日	本学主催のIUSOH(国際姉妹校連合)第1回会議、ダブリン(アイルランド)で開催
	9月4日	新潟歯学部8号館竣工式を挙げる。2階に日本初の公認医学博物館「医の博物館」が開館
2年(1990)	4月1日	大学院新潟歯学研究科、文部大臣より認可を受け開設
	9月23日	第4回国際歯学研修会、新潟歯学部講堂で開催
	10月15日	名誉学長中原實先生逝去。本学理事長、学長、日本歯科医師会会長、日本私立大学協会会長等を歴任
3年(1991)	3月8日	中原爽理事長・学長が社団法人日本歯科医師会会長に選出される
	3月15日	歯学部本館棟(地上10階、地下2階、延べ17263㎡)竣工。8階富士見ホールで竣工式
	4月1日	第6代学長に中原泉新潟歯学部学部長が就任
4年(1992)	4月30~5月1日	第5回国際歯学研修会、マンチェスター大学(イギリス)で開催
	11月1日	フィリピン大学と姉妹校提携
5年(1993)	5月	新潟歯学部附属病院再整備計画により、病院玄関と待合ホールを改修
6年(1994)	10月1日	歯学部教務部は学生部と合併し、教務・学生部となる
7年(1995)	6月1日	第7代学長に佐藤亨教授が就任。中原泉学長は新潟歯学部学部長に就任
	7月23日	中原爽理事長が参議院議員に当選(2期つとめる)
	11月25~27日	中原泉新潟歯学部学部長を会頭に第18回日本歯科医学会総会を開催
8年(1996)	6月1日	創立90周年記念式典。11月16日全国校友大会を帝国ホテルで開催
		新制大学発足以降、本学発展に貢献した教職員(物故者)の氏名を刻んだ銘板を歯学部本館1階ホールに設置
		1階ホールを「メモリアルホール」と命名
	8月23~24日	第6回国際歯学研修会、プリティッシュコロンビア大学(カナダ)で開催
9年(1997)	7月	アデレード大学(オーストラリア)、オタゴ大学(ニュージーランド)と姉妹校提携
	9月	新潟歯学部1号館1階教室を改修し、150席の「アイヴィホール」竣工
10年(1998)	4月	歯学部附属病院に心療歯科診療チーム設置。新潟歯学部附属病院にスポーツ歯科外来、白い歯・きれいな歯ぐき外来を開設
11年(1999)	2月26日	新潟歯学部6号館の先端研究センター竣工、開所式を行う
	4月	『新常用歯科辞典第3版』(編集代表:中原泉)刊行
12年(2000)	4月1日	第8代学長に中原泉新潟歯学部学部長就任
	7月10日	第4代理事長に中原泉学長就任
	9月27日	新潟寮(女子学生寮)新潟市浜浦町に新築
13年(2001)	1月	歯学部で臨床系講座と診療科を二元化
	7月	第7回国際歯学研修会を歯学部富士見ホールで開催
	11月	歯学会、英文誌“Odontology”を発刊(和文誌『歯学』を継承)
14年(2002)	3月	歯学部女子学生寮、江東区木場に開設
	3~5月	歯学部と新潟歯学部で歯科共用試験(OSCE・CBT)の試行テストを実施
	4月	新潟短期大学と歯学部附属歯科専門学校で歯科衛生士教育に3年制を導入
	8月	新潟歯学部附属病院に臨床シミュレーション室を開設
15年(2003)	4月	新潟歯学部で臨床系講座と診療科を二元化
	6月	“Odontology”がアメリカ国立医学図書館の国際データベース「MEDLINE」に登録される
16年(2004)	9月	100周年記念館I期棟が竣工
	10月28日	第8回国際歯学研修会を歯学部富士見ホールで開催
	10月	新潟歯学部講堂2階に骨格標本室を開設
	11月30日	東京短期大学設置が認可される(2005年4月開校)
17年(2005)	8月1日	モンゴル健康科学大学(2016年「国立モンゴル医科大学」に改称)と姉妹校提携
	10月	歯学部附属病院全館改修工事竣工
18年(2006)	1月5日	千代田区大手町の本学発祥の地(旧商工中学校跡)に記念碑建立
	4月1日	学部名称を生命歯学部、新潟生命歯学部に改称。病院名称を附属病院、新潟病院、医科病院に改称
	5月	100周年記念館II期棟が竣工。図書館、九段ホール等が移転
	6月1日	創立100周年記念式典。10月8日全国校友大会をホテルニューオータニで開催
	9月21日	新潟生命歯学部校庭に創立100周年記念碑建立
	11月1日	メリーランド大学(アメリカ)と姉妹校提携。歯学部は世界初の歯科医学校ボルチモア歯科医学校を継承
	12月16日	生命歯学部100周年記念館竣工式典。校庭にヒポクラテスの木植樹
19年(2007)	8月	附属病院が日本医療機能評価機構の認定を受ける(私立歯科大学では初の認定病院)
	9月	新潟生命歯学部マルチメディア実習室を開設
	11月1日	新潟病院在宅歯科往診ケアチームが「新潟日報文化賞」を受賞
20年(2008)	8月	附属病院で歯科教育用患者ロボット「シムロイド(SYMR0ID)」を開発。スキルラボに設置
21年(2009)	5月1日	生命歯学部初の寄附講座「歯髄生命科学講座」を設置
		新宿区筑土八幡町の神楽坂上に1277㎡(420坪)の校地を取得
22年(2010)	10月	中原貴教授(生命歯学部発生・再生医学)、第55回日本口腔外科学会総会で世界初の歯の体外培養再生の成功を報告
	11月22~23日	第100回ワークショップを開催
23年(2011)	3月	東京・新潟の両学部で第100回卒業式を挙げる
	10月25日	新潟病院在宅歯科往診ケアチーム、第一生命保険「保健文化賞」を受賞
24年(2012)	4月1日	教員の定年を70歳から65歳に変更(教授は68歳)
		生命歯学部に着着歯科学講座を開設
	7月4日	香港大学(中国)と姉妹校提携
	10月17日	東京都小金井市のJR東小金井駅前に日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニックを開院
25年(2013)	1月25日	住友雅人生命歯学部学部長、日本歯科医学会会長に就任
	10月	生命歯学部発生・再生医学講座、歯科法医学講座の2講座を開設
26年(2014)	5月22日	プリティッシュコロンビア大学(カナダ)と大学院留学生協定締結
	6月	校友会で『考証 中原市五郎史伝』を編纂・刊行
	10月17日	生命歯学部衛生学講座、歯髄幹細胞で肝臓を再生し、世界初の前臨床実験に成功の記者会見を行う
27年(2015)	4月	「日本歯科大学・セントラルクリニック歯髄細胞バンク」を設立(2017年に「歯の細胞バンク」と改称)
	5月8日	ダヌーブ・プリバード大学(オーストラリア)と姉妹校提携
	6月	東京・「特定認定再生医療等委員会」を設置(私立大学で最初)
	7~12月	歯髄細胞バンク認定医講習会を計8回開催
	9月6日	緊急フォーラム「歯科と認知症」開催
	10月27日	新宿区筑土八幡町に体育施設「神楽坂上フィールド」竣工
28年(2016)	3月	堀憲郎先生(第68回卒)、日本歯科医師会会長に就任
	5月	『常用歯科辞典第4版』(編集代表:中原泉・藤井一維)刊行
	6月1日	創立110周年記念式典。10月22日全国校友大会を帝国ホテルで開催
	10月	動画「中原式咬合器の開発」を作製
29年(2017)	1月17日	新潟生命歯学部で先端研究センター・生物科学施設竣工
	4月1日	副学長に中原貴教授就任
30年(2018)	4月1日	新潟県三条市に日本歯科大学在宅ケア新潟クリニックを開院(往診に特化したクリニック)
	6月1日	創立112周年記念式典後、中原泉学長、小林隆太郎教授らが、安倍晋三首相による公邸での夕食会に招待される
	9月11~19日	新潟生命歯学部で医の博物館開館30周年記念展「浮世絵と西洋版画にみる歯磨きとくちもと」を開催
	12月9日	歯科大学・歯学部初の認知症カフェ「Nカフェ・アングル」新潟生命歯学部オープン(毎月1回日曜日開く)
31年(2019)	3~4月	東京と新潟の両学部、両短期大学で平成最後の卒業式と入学式を挙げる



わが国初の医学博物館「医の博物館」



名誉学長 中原實先生(1893~1990)



IF付き英文学術誌“Odontology”



生命歯学部本館(左)と100周年記念館



学部名称を「生命歯学部」に改称



東京・小金井市の多摩クリニック



東京・歯髄細胞(歯の細胞)バンク設立



新潟・三条市の新潟クリニック